

## 教育心理学教室教官の研究状況報告

よって報告された「ナイト・ホスピタルに関する研究—その理念と実態—」はそうした志向性の一端であり、これを端緒として、今一層この問題の掘り下げへと努力が向けられている。

医療臨床の場における、最近きびしく問われている課題のひとつに、いわゆる「薬物」の問題がある。これらが精神症状にもたらす効果についての検討といった線で、45年11月、第11回 GABA 研究会において、共同研究者、刈谷病院、平野千里によって報告され、条件反射 III 集所載の「不定愁訴に対するガミベタールの使用経験」は、この種の研究の限界と批判をよぶものとして、今後の課題となる。

3. 私自身の臨床家としての研究の今ひとつの柱となるべき障害児への関心は、今年また昨年にひきつづいて、それをより深めていったと思われる。

金沢大学富安芳和らとの共同になる、ここ数年の経過をふまえての、「精神薄弱児の適応行動尺度に関する研究」については、今年度のNHK精神薄弱研究奨励費を得ることが出来た。研究メンバー全員が分担して、全国各地域の合計100に近い施設を個別に訪れ、評定票の蒐集を依頼することにこれまで重点がおかれたが、今は集まりつつある資料の整理に大童の現状であり、明年4月を目して、日本文化科学社からの刊行が企図されている。

重度精神薄弱児への新しい接近として、昨年その緒を開いた、愛知県心身障害者コロニー内、はるひ台学園における重度児との取り組みは、今年また学部教育研究

実習の一環として、8月に行なわれた。昨年の実習のまとめを、名古屋大学教育学部紀要第17巻に、「重度精神薄弱児に対する人間学的接近(序報)—かかわりの体験をとおして—」と題して報告されたのにひきつづき、今年また実習体験の一部は、その第2報、「私の内なる障害児」への志向といった副題のもとにまとめられ、この紀要第18巻に載せられる。

“変る”ということの意味をたずねての、障害児の発達により焦点をあてての分析も、今年度研究実習の今ひとつの主題であるとともに、46年5月、新しい特別実験棟の完成とともに開始され、以後今日に到るまで毎週1回院生が中心となって継続して行なっている、重度障害幼児に対する療育実践の成果とあわせて、それらの討論を重ねてきたが、現在まだ発表の段階には達していない。

4. 大学における教育状況を、私自身の臨床家としての基本的姿勢に立って省察することも、私にとっての研究の今ひとつの柱である。文部省総合研究費「学生の適応異常に関する研究」を今年度また分担することとなって、46年1月、松山において開かれた、この研究班討議に参画してきたし、第一法規の教育学叢書第11巻「教育指導」に執筆した第8章「大学における教育指導」所載の観点に即しての、学生相談活動をつづけてきた。共同研究者との数度の討議を経て、現在、明年1月予定されている別府シンポジウムに向け、特に留年、積極的意欲高揚のありかたの問題をめぐるとのまとめを検討している段階である。(1971年11月24日)

## 研究概況の報告 (1971年1月以降)

塩 田 芳 久

1. バズ学習の実践的研究——この研究は、現場との共同研究として、ここ数年来継続的に実施しているものである。昨年度は、バズ学習の基本的構想(理論的な枠組)を実際の授業の中でいかに組み立てていくかの問題を、いわゆる研究授業の繰返しと、そのまとめとしての実験授業を通じて、実証的に解明していくための第1段階の研究を行ってきたが、本年度は、さらにこれを進めて第2段階の研究を計画し、目下実施中である。その主要な狙いは、認知的目標と態度的目標の測定と評価の問題を解明することである。とくに態度的目標に重点をおいた研究を進めている。

なお、近く昨年度までの研究をまとめて報告したいと計画中である。

2. バズ学習の基礎的研究——上記の「バズ学習の実践

的研究」とは別に、学習課題の構成、それへの取り組み方(ストラタージュの問題)、グループサイズと相互作用の問題等についての基礎的な研究を計画し、実施中である。

3. 学級集団の構造に関する研究——この研究も、従来からの継続的な研究であるが、昨年度までの研究を一応まとめたいと考えている。

4. 集団課題解決に関する基礎的研究——この研究も、昨年度からの継続的なものであるが、1部計画を変更して、上記2.の研究と併わせて目下実施中である。なお、文献的研究はかなり進捗しているので、近くまとめたいと考えている。

5. 親子関係に関する研究——この研究は、名古屋市の家庭教育問題調査委員会の調査研究の1部として実施さ

## 教育心理学教室教官の研究状況報告

れたものである。ここでの問題は、家庭行事の実態と、それが親子関係にどのように影響を及ぼしているかを明らかにすることであった。この研究の1部はすでに報告書としてまとめられている。本年度は、さらに「マスコミと親子関係」の問題をとりあげ、目下実施を計画中で

ある。

6. 学力診断のためのテスト・バッテリーの研究——この研究も、昨年度からの継続的な研究であるが、目下、診断—治療・予防の総合的な Procedure を検討するための資料を集めている段階である。(1971年11月24日)